

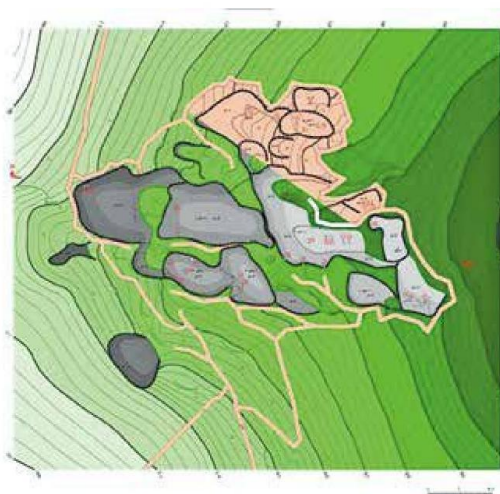
じゅうさんぶつ いわ や  
**十三仏と岩屋**



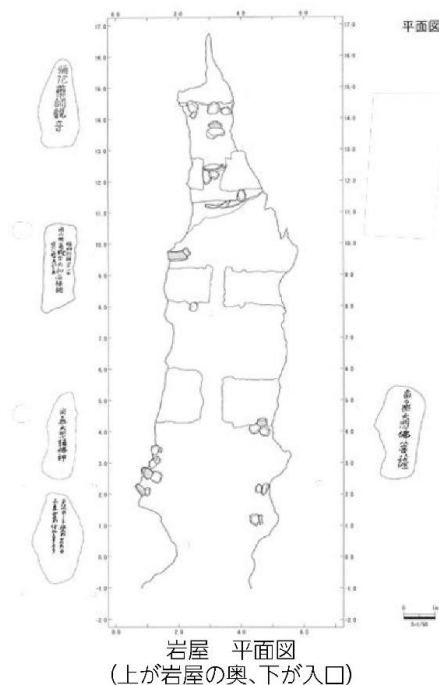
十三仏



岩屋



十三仏 全体図



岩屋 平面図  
 (上が岩屋の奥、下が入口)

りするため、南川目にやって来て岩屋を開くとともに、十三仏の霊場も再興したとされています。

岩屋の内部には「長沢のみなみの又の岩の穴 本来空の住かなりけり」という鞭牛の詩碑と開山碑、最奥部には「弥陀薬師観音」と刻まれた石碑があります。

死者を供養する十三の仏・菩薩だけでなく、胎内くぐりの行場や一字一石血書供養塔など、鞭牛が自らの修行と信仰にはげみながら、道路開削への思いを込めた場所であることがうかがえます。

◇ 指定日 昭和58年10月24日

◇ 所在地 長沢

◇ 所有者 個人

十三仏とは、死者の追善供養として初七日から三十三回忌までの間に行う十三回の法要をそれぞれに守護する本尊の総称です。

和井内村（現在の宮古市和井内）生まれの牧庵鞭牛和尚は、宝暦5年(1755年)、橋野村（現在の釜石市橋野）の林宗寺を隠居し、その後の半生を道路開削に捧げました。

その年は、宝暦の大飢饉といわれ、大凶作で多くの人々が倒れ亡くなりました。

鞭牛は、そういった人々たちを供養したり、人々や物資が行き来する道の難所を開削した